

令和7年度バイオマス産業都市選定委員会の概要

1. 開催日 令和7年12月23日（火）

2. 開催場所 農林水産省統計部第1会議室（3階 北314号室）

3. 出席者

【選定委員】

芋生 憲司	東京大学 名誉教授
酒井 伸一	公益財団法人京都高度技術研究所 副所長
坂西 欣也	エネルギー・エージェンシーふくしま 代表（オンライン参加）
竹ヶ原 啓介	政策研究大学院大学 教授（欠席、書類参加）
塚本 修	一般財団法人カーボンフロンティア機構 理事長（座長）
野村 充伸	株式会社フソウ 取締役会長

【関係府省】

内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

4. 概要

【要旨】

バイオマス産業都市選定委員会を開催し、4つの視点（①先導性、②実現可能性、③地域波及効果、④実施体制）を中心に、応募のあった市町村についてヒアリング及び評価を行った結果、3市町村（千葉県長柄町、静岡県小山町、宮崎県西都市）を選定委員会の推薦案とすることに決定。ただし、うち長柄町については推薦にあたり条件がついたことから、条件となった事項への町からの回答を以てバイオマス活用推進会議へ推薦することとなった。

【総合評価】

各市町とも、地域の特色を活かしたバイオマス産業を軸としたまち・むらづくりを目指す構想となっている。事業の実施にあたっては、以下に留意しつつ取り組んでいただきたい。

【長柄町】

講評：

- ①アグリツーリズムを活用した取組として期待でき、今後、首都圏においてこの取組が広がれば新たなバイオマス産業都市が生まれると期待する。
- ②実施体制が少し不明確であり、着実な計画策定と実施が望まれる。
- ③構想の実現はブランディングの成否にかかっており、ブランディング戦略の十分な検討が必要

条件：

- ①推進協議会事務局に確認の上、事業の実現性を担保する十分な実施体制を構築すること。
- ②ブランディング戦略について、方法や体制などを十分に検討すること。

【小山町】

講評：

- ①周辺に既存産業との集積があることや他地域の事例もあることから実現性が高い。
- ②各地でボトルネックになっているバイオマス資源の利活用を段階的に高度化していく計画であり、地域経済循環の視点と合わせてモデル性が高い。
- ③小山町は富士山に近く山梨県と神奈川県に接する地域のため、隣県部との連携、観光、エコツーリズムなど新規アイデアがあるとよい。

【西都市】

講評：

- ①放置竹林の活用、ヤナギの利用についてシステム化すればよい事例であり、波及効果が大きいことから、全国のモデル的プロジェクトとして期待できる。
- ②市と協議会の連携が取れていることや事業主体が明確で、プロジェクトごとに専門部会を作るなど、実施体制がしっかりしていることから評価できる。
- ③耕作放棄地の活用するプロジェクトについて、条件の良い土地においては農業利用することも検討いただきたい。